

*Tokyo Amadeus Chorus*

東京アマデウス合唱団  
クリスマスコンサート



2000 **12|17**日

午後7:00開演

上野公園内**奏楽堂**  
(旧東京音楽学校奏楽堂)

---

## ご 挨拶

今宵は、お忙しい中をご来場いただき、団員一同厚くお礼申し上げます。

東京アマデウス合唱団は、1980年の創立以来、モーツァルトのほか古典派の作品を中心にほぼ毎年1回の定期演奏会を行ってまいりました。

本年は、去る7月22日に前指揮者「齋藤明生先生」を偲ぶ追悼のミニ・コンサートを行ったため、毎年秋に開催しておりました定期演奏会を、来年21世紀初めての秋に第20回記念として開催する事とし、今回は、小曲を集めたクリスマスコンサートを開催する事に致しました。

幸いにも「奏楽堂」での開催が可能となり、クリスマスに因んで、バッハの待降節と降誕祭のコラール、異なった四つのアヴェ・マリアというユニークなプログラムで、この貴重な重要文化財の中での演奏という運びとなりました。

毎回続けてご来場を頂いております方々や、ご来場の皆様方からの暖かいご支援に支えられ、このクリスマスコンサートを開催することができますことを、団員一同心から感謝いたしております。

団員の一人一人が精一杯力を出し切って今回のコンサートを成功させたいと思っておりますので、暖かいご声援と共に演奏をゆっくりお楽しみ戴ければ幸いです。

2000年12月17日

東京アマデウス合唱団  
団 長 柿 沼 哲

---

# The Program

## 第1ステージ.....

### 1. バッハ編曲によるクリスマスのコラール.....

Johann Sebastian Bach (1685-1750)

1. Gottes Sohn ist kommen (神の御子は、私達全てのためにここにお生まれになりました)
2. Vom Himmel hoch, da komm ich her (高い高い天から、私はそこまで来ています)
3. Wachet auf, ruft uns die Stimme (目覚めよと、物見達が私達を呼ぶ声がします)

### 2. Hugo Distler編曲によるクリスマス作品..... (1908-1942)

1. Nun komm, der Heiden Heiland (さあ、今おいで下さい、異邦人の救い主)
2. Maria durch ein' Dornwald ging (マリア様は、イバラの茂る原を抜けて行かれました)

### 3. 四つの Ave Maria

1. Ave Maria..... Jacques Arcadelt (1500頃-1568)
2. Ave Maria..... Josquin des Prés (1440頃-1521)
3. Ave Maria..... Tomás Luis de Victoria (1548頃-1611)
4. Ave, Maria..... Giovanni Pierluigi da Palestrina (1525頃-1594)

## 第2ステージ.....

### 1. バッハ編曲によるクリスマスのコラール.....

Johann Sebastian Bach (1685-1750)

1. Ich steh an deiner Krippen hier (私は、このあなたの飼葉桶の間近に立っています)
2. Ein Kind geboren zu Bethlehem (一人のみどりごが生まれました、ベツレヘムに)
3. In dulci júbilo (快い叫びを上げて、さあ歌って喜びなさい)

### 2. William Byrd..... (1542or43-1623)

O Magnum Misterium (おお、大いなる玄義と驚くべき秘蹟よ)

### 3. Tomás Luis de Victoria..... (1548頃-1611)

O Magnum Mysterium (おお、大いなる玄義と驚くべき秘蹟よ)

### 4. Giovanni Pierluigi da Palestrina..... (1525頃-1594)

Dies Sanctificatus (聖なるものとされる<御降誕の>日が、私達に明けました)

## 第3ステージ.....

### クリスマスにちなんだ讃美歌4曲

- ・まきびとひつじを
- ・いざ来たれ、主にある民
- ・天なる神には
- ・きよしこの夜



## § 今回の演奏曲目について §

クリスマスは「降誕節」「降誕祭」と訳されるが、正確には12月25日のキリスト降誕を記念する礼拝の行われる祝日を指し、その語尾<-mas>は語源を遡ると、礼拝の集まり、即ちミサを意味した<mass>に由来する。現在多くの教会は25日に最も近い主日（日曜日）をクリスマス礼拝に当てるが、古く遡れば遡るほど、本来の教会暦を厳格に守る傾向が強かった。そして、この祝日の前の四つの主日の礼拝を中心とした時期を「待降節」<Advent (Avent)>と呼んで降誕に備えるのであるが、この区別もプロテスタントでは近年形骸化する傾向にあり、12月に入ると早々とクリスマスの集いを開く例も少なくない。クリスマスに歌われる歌は「聖歌集」や「讚美歌集」に収められているものも含めて「キャロル」と呼んでいるが、その語源となる古いフランス語<carole>は、ゆっくりとした中世の円舞を指す言葉であった。それがヨーロッパ中に広まり、英語圏で民衆的クリスマスの賛歌の多くが畳句を含む舞踏歌から出ていたことから、16世紀半ば以降<carol>と呼ぶに至った。しかし、クリスマスの賛歌の主流は「聖歌」（典礼聖歌）であり、これに対して民衆の賛歌があった。後者の呼び方はそれぞれ民族によって異なり、フランスもこのような賛歌を<noël>と呼び、<carole>は死語に成っている。こうした民衆の賛歌が教会の聖歌に採り入れられ、現在では由来を異にする聖歌までも「キャロル」と呼ばれる。最新のThe New Oxford Books of CAROLSを見ると、クリスマスのミサに関係する典礼グレゴリオ聖歌までも<carol>として掲載されていて、私達を驚かせる。一方、教会の聖歌や民間のキャロルが偉大な作曲家の手に掛かって芸術的作品に成る例も多く、それが聖歌に逆輸入されることも珍しくない。そして、作曲家本人が意図しなかったことであるが、彼がさまざまな宗教曲の中で使用した編曲例を使って、聖歌をポリフォニックに歌い直そうとする、と言うよりは、聖歌やキャロルを編曲者の「作品」として顕在させようとする試みも、最近の楽譜出版の新傾向として見られるようになった。

Johann Sebastian Bachの没後250周年に当たる2000年を記念してBärenreiter社が最近出版した、Klaus Hofman等によるバッハ・コラール集の編集がその一例である。最初にその中から三曲を取り上げる。

**Gottes Sohn ist kommen**は、ルター派の聖歌の成立に貢献したボヘミア人（匿名）の手によって歌詞が作られ、元来は九節の歌詞から成っていた。定旋律は1410年にHohenfurtで生まれたラテン語の聖歌《Ave Hierarchia》を改訂して歌詞の作者が待降節の聖歌としたもので、Bachはこの聖歌をBWV318のカンタータにト長調で歌詞を付けずに使用した。ここに演奏されるものは、彼の編曲をへ長調に直して、聖歌の歌詞を付けたものである。定旋律には中世風の余韻が感じられるが、Bachはそれを低音三声の処理によって、見事にバロック風に変身させている。歌詞の内容は、キリストの降誕が私達と直接関わりを持ち、その目的が私達を罪から解放し、悔い改めへ導いて真理へ移らせることにあり、神に敵対する態度を捨てて服従する者には赦しが約束されることを説き、そして聖餐の秘儀へと移っている。ここにおいて受肉と聖餐の関係が浮き彫りにされる。

**Vom Himmel hoch, da komm ich her**は、Martin Lutherが1535年に自分の家庭でクリスマス・イヴを祝うために作詞したもので、全体で15節より成る。主旋律はLuther自身によってリズムのやや異なったものが作られ、1539年に聖歌に採用された。モデルになったのは、男の子が女の子から冠を贈られる時に答礼として歌う花冠の歌であろうと言う説がある。Lutherは1543年に同じ旋律に別の

15節の歌詞を付け直して居り、それも聖歌に収められている。Bachはクリスマス・オラトリオBWV248の第17曲のコラールの定旋律として、少しリズムを変えて編曲したものを用了。

**Wachet auf, ruft uns die Stimme**は、1599年Philipp Nicolaiが作詞作曲したもので、ルター派の教会では待降節前の教会暦の終わりに歌う聖歌として使われ、英国国教会などでは待降節に歌うこともある。Nicolaiは力のある説教家であったが、時にはルター派の論客となって、カトリックやカルヴィニズムと論争を闘わせた。BachはカンタータBWV140の第7曲のコラールでこの編曲を使用し、第3節の歌詞を添えた。このカンタータも1731年11月25日三位一体節後第25日曜日にライプツィヒで初演されたもので、ルター派の教会では、定旋律の聖歌が待降節に歌われることは殆ど無かった。

作曲家によるクリスマスの聖歌やキャロルの編曲が高い芸術性を示す例は、Bachだけではなかった。次に演奏するHugo Distlerの二曲がそれである。Nürnberg出身で1940年代国立アカデミー高等音楽院の教授であったDistlerはキリスト教界に対するナチスの迫害の下で作曲は流産、作品は「墮落した芸術」の烙印を押されて、自分が公職に在っても当局の敵意と軍事奉仕に駆り出される脅威に怯え、空襲を受けるベルリン市内で鬱病に成り、1942年11月1日若くして世を去った。その作品が世に知られるようになったのは、第二次大戦後である。ベルリン時代(1937年一時シュトゥットガルトに逃避)の前、1930年代前半に彼はリューベックのヤコブ教会でオルガニストを務めながら教会の聖歌隊を指導していた。演奏される二曲の編曲作品は1932年又はその翌年に纏められた五十二曲の三声のモテット集《Der Jahrkreis》に含まれるもので、彼の殆どの宗教曲と共にその時期に作曲され、教会で演奏されたものである。

**Nun komm, der Heiden Heiland**は、Martin Lutherが1524年に待降節の聖務日課のグレゴリオ聖歌《Veni, Redemptor genicium》を翻訳して、その原曲をヒントに改作したものである。ルター派の教会では代表的な待降節の聖歌としてこの曲を愛し、Distlerと同じくナチスの迫害を受けたDietrich Bonhoefferも、Hitler暗殺計画に関与して処刑される前に獄中でこの歌を口ずさんだ。同じ原曲の編曲作品としては、他にSeth CalvisiusのものやBachのカンタータBWV61, 62が知られている。この歌詞はキリストの「光」としてのイメージを「太陽」にして描いているが、これはクリスマスを「正義の太陽」であるキリストの降誕と顕現の日であるとするカトリックの教義に沿ったもので、降誕を「新しい光と新しい太陽である神の子の受肉」と説いたローマ教皇Leo I世の言葉にも明確に表れている。

**Maria durch ein' Dornwald ging**の原曲は15世紀と考えられる、ドイツの中世末期の民間のクリスマスの歌で、1608年に発行された《Andernacher Gesangbuch》に載る。マリアの描き方としては、幼児イエスをマリアが抱くクリスマスの聖母子像が基底にあるが、それが画家達がしばしば関心を寄せた「野原の聖母」「森の中の聖母」のテーマを孕みながら、中世のマリア像のもう一つの典型であった悲しみの聖母に近付いている。イバラの茂みが広がる原はキリストを十字架に付けようとする罪人達のこの世の世界を象徴し、そこに十字架の下で降ろされたイエスを抱くマリアの姿がすぐに連想されてくる。<Kyrieleison>はドイツ中世の祈禱歌の形式を持つ民謡Leisの伝統によったものである。

クリスマスの曲として《Ave Maria》が好んで選ばれるのには理由がある。その歌詞の冒頭の言葉のフレーズがルカによる福音書1章28節の「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる」を引いているからである。ラテン語の歌詞は、天使ガブリエルのこの言葉を、罪深い人間から聖母への慈悲を哀願する呼び掛けの形を取るために、少しニュアンスを変えている。従って、〈おめでとう〉よりも聖母にすぎり、迎え入れようとするラテン語本来の意味〈ようこそ〉の方がよく、〈恵まれた方〉もラテン語では「優しさ」「恩寵」を表す言葉になっている。ラテン語ミサでは待降節に歌われ、特に第4主日のミサの奉献唱として歌われるものが重んぜられている。《Ave Maria》を作曲した例は非常に多いが、ここでは四曲を演奏する。

**Jacques ArcadeltのAve Maria**は、Arcadeltが1554年に作ったシャンソン《Nous voyons que les hommes私達には分かっていますよ、殿方は…》を、19世紀にP. L. Dietschが改編したもので、厳密な意味ではArcadeltの作品と言える要素は、音楽面に含まれているに過ぎない。1540年頃からArcadeltはローマ教皇庁に奉職した後、1551年にフランスに行ってロレーヌのCharles王侯家に王室音楽家として仕え、晩年を過ごした。彼は宗教曲よりも世俗曲に関心を持ち、126曲のシャンソンと200曲以上のマドリガルが現在残っている。

**Josquin des PrésのAve Maria**は、1502年にフランドル出身のJosquinがイタリアのフェラーラでErcole I世公爵に仕えた頃自ら選んで出版した最初のモテット集《Motetti A》の中に加えたもので、その制作は彼がローマ教皇庁に奉職した時代以前には遡らないと考えられている。この曲の基本構造が模倣であることは既に指摘が多い。初めはガブリエル天使の祝文を引いた通例の歌詞で始まるが、続く部分は降誕、お告げ、被昇天の経文が歌われており、キリストとマリアの一体化に近づいている。しかし、カトリックでは「信者はマリアを礼拝することはできず、又そうしてはならず、ただ聖人に呼び掛け賛美するように、マリアの恩寵、特典、品位の故に之を崇敬するだけである」と定義づけている《カトリック大辞典》。最後は聖母の愛顧を祈る言葉で終わる。

**Tomás Luis de VictoriaのAve Maria**は、F. Pedrelによって編集された《Opera omnia》の中にも含まれるもので、制作年代は明らかでないが、《Ave maria》の屈指の名曲として知られる。スペインのアヴィラに生まれたVictoriaは、ローマのJesuit Collegio Germanicoで学び、その修道院で長く過ごし、司祭課程を経て1578年6月Girolamo della Caritaの礼拝堂付き司祭に就任し、1583年スペインに帰国してMaria皇太后に仕えるまでの傍ら作曲、歌手、オルガニストとして活動を続けた。この時期に1572年に最初のモテット集を出しており、《Ave maria》もその頃までに書かれたと推測される。歌詞の〈ora pro nobis peccatoribus nunc〉とある部分の祈りは、マリアを仲保者として考えるマリア信仰の重要な特性を示している。冒頭のグレゴリオ聖歌はマリアを賛美する時に歌われるアンティフォーナで、曲はそれをパラフレイズするように変形させ、以下も原曲と対立させたり崩したりしながら、二分音符と全音符による響きの良い和声を成して進み最後の〈Amen〉は荘重な終結部を構成している。歌詞はほぼ原曲の典礼歌の通りである。

**Giovanni Pierluigi da PalestrinaのAve Maria**は、1563年に刊行された第1モテット集に含まれるもので、彼が1551年9月から妻帯問題で辞職する1555年10月までのローマの聖ピエトロ大聖堂内の



ラテン語の歌詞の冒頭はグレゴリオ聖歌のクリスマス真昼のミサに歌われる、よく知られる入祭唱(Introitus)の冒頭<Puer natus est nobis>を思わせるものがあり、<alleluia, alleluia>の繰り返される形もアンティフォーナのあるものに見られる。内容は降誕の物語の一齣一齣を絵で見るように説き明かしている。曲は舞踏のリズムを感じさせる三拍子になっており、この点も民間の賛歌の特徴を具えている。

In dulci jubiloは、天使がHeinrich Seuse (Suso)に教えたという伝説がある。彼は14世紀前半の人でドミニコ会の修道士であった。ある夜、彼は幻の中に天使達が喜ぶ姿を見て長い間見入っていると、その天使が若い王子のような姿でほかの同じ様に若い天使達とやって来て、飼葉桶の中の幼児のイエスの側で踊りながら喜びの歌を歌った。それが<In dulci jubilo……>で、彼らは彼の手を取って踊りの輪の中に引き入れたと言うのである。この伝説は、この曲が元来円舞を伴う所謂キャロルであったことを物語る。しかし、この伝説はこの曲の起源を必ずしも語るものではなく、当時既に知られていた可能性も指摘されており、起源を13世紀に遡らせる説もある。この曲はドイツ語とラテン語が混じるテキスト例で最も古いものとされ、歌詞の流れが、言語の交替を無視して一貫した文章を作って進む。これに対して《Ein Kind geboren zu Bethlehem》は、ドイツ語で歌われたり、古来のままラテン語が歌われたりした。音楽とテキストが揃った最も古い例は1400年頃のライプツィヒ大学の文献の中に見られる。それは、歌詞が舞踏用の一節だけのものであった。それが15世紀に四節になり、プロテスタント的な観点から第四節は一時削除されたが、1545年Valentin Trillerが改良を加えて現在のよう形になった。実はその歌詞は第三節としてもう一節加わるのであるが、1646年《Hannoversches Gesangbuch》が完全ドイツ語版《Nun singet und seid froh》を掲載した際、第三節に当たる一節を削除して替わりに新しい歌詞を最終節に加えた。今回の演奏楽譜が第三節を削除しているのは完全ドイツ語版に合わせたのである。ルター派の聖歌は完全ドイツ語版を使っている。Bachは《vierstimmige Choralgesänge》(C. P. E. Bach編)第150曲BWV368(このコラール集は歌詞は一切省略されている)でこの和声付けを行っている。同じ定旋律をBachが使って展開させた例として、他に小オルガン曲集《Orgelbüchlein》に収められたBWV608などがある。歌詞の中でキリストが「アルファであり、オメガであられる方」と歌われるのは、ヨハネの黙示録1:8にキリストが自ら名乗った言葉として「私はアルファであり、オメガである」とあるのを引用している。初めに居られて万物の創造者となり、それを完成させ、やがて終わりの時に来られる方という意味であり、<Eja qualia!>は「さあ、どんな者も王の裁きの座に出て、御前で審判を受けなければならない」という意味である。

一方、カトリック典礼聖歌では飼葉桶のキリストはどのように歌われるのであろうか。クリスマスの朝課第4答辞(Répons)として歌われる《O Magnum mysterium》にそれを見ることができる。その冒頭の歌詞は、飼葉桶に寝かされているキリストを「大いなる玄義と驚くべき秘蹟」と讃えるが、その「玄義」「秘蹟」とは、神と等しくあられ、この世の世界とそこに流れる時間の創造主であられる方が、みすばらしい飼葉桶の中に横たわる幼児として示されることの測り難い玄義と、正義の太陽である神の子が受肉によって顕現されることの秘蹟と説明される。

William Byrdの《O magnum misterium》は、1607年ロンドンで《Gradualia seu cantionum sacrarum》第2集第2巻四声の部の第8曲と第9曲(折り返し<Beata Virgo>以下とVerse)に収められて出版



された。Byrdはカンタベリー主教座大聖堂付のThomas Tallisの弟子で、1570年2月から王室礼拝堂のGentlemanであった。Elizabeth I世女王がラテン語の礼拝を好み、ラテン語祈祷書の使用を公認したので、彼は1575年に女王の許可を得て《Cantiones, quae ab argumento sacrae vocantur》を纏め、女王に礼拝用に献呈し、出版した。この出版はTallisと共編であったが、英国国教会ではすでに英語の礼拝が主流であったため、出版による普及計画は失敗に終わり、懲りた出版社は以後十三年間以上も何も出版しなかった。しかし、Byrdはその後も益々多くの公けの場では演奏する機会のないラテン語のモテットを書いてその量は夥しい数に昇り、英国国教会に属しながらカトリックの世界に傾斜して行った。1593年からはロンドンから遠く離れたエセックス州のストンドン・マーシーに移り住み、そこでByrdとその家族はIngateston Hallで秘密に開かれるミサに出るようになった。即ち、密かにカトリックに改宗したのである。《O magnum misterium》はそのような時代にミサ礼拝のために書かれた。曲は<Beata Virgo>以下が折り返しになっていて、Verseとして歌われる<Ave, Maria>の部分はソプラノ、アルト、テノールの三重唱で書かれている。このテキスト構造は典礼聖歌の形に基づいている。旋律はグレゴリオ聖歌にとらわれない独自のもので、逐語的な表現よりもむしろ音楽的な旋律の美しさ、均整の取れたポリフォニーの構成に重きを置いている。その中で、<Ave, Maria>の表現が特に際立っているのは、Byrdの信仰の姿を映すものであるかも知れない。

Tomás Luis de VictoriaのO magnum misteriumは、1572年ヴェニスで出版されたモテット集に収められたもので、Victoriaは1569年からサンタ・マリア・デイ・モンセラート教会で歌手兼オルガニストとして務める傍ら、1571年9月からイエズス会のCollegio Germanicoで寄宿生に音楽を教えることになった。この作品はそのような時期に恐らく教材とする目的で書かれた。というのは、本来折り返しになる<Beata Virgo>以下を改訂し、Verseを削除して替わりに<Aleluia>を付けているからである。このようにすることによって、一つのこれだけで完結したモテットが出来上がる。この曲もグレゴリオ聖歌を離れているが、その手法はByrdと違い、努めて逐語的な表現に徹している。それは、例えば冒頭の<O magnum misterium>の旋律に込められた感動が如何に忠実に歌詞を表現しているかを見ただけでも解る。そのようにして表現されている「なんと動物達も生まれた主を見守っていました」<ut animalia viderent Dominum natum>の部分の驚きの強調が何と率直なことか。そこには疑いもためらいもない。そして、それがマリアへ向けられた賛美の表現へと移って行き、感動の高まりは三拍子の<Aleluia>で頂点に達し、再び四拍子に戻ってコーダとなって収束される。

Giovanni Pierluigi da PalestrinaのDies sanctificatusは、クリスマスの真昼のミサの昇階唱(Graduale)の中に含まれる<Aleluia>唱に続く聖歌の後半を改訂してクリスマス用のモテットにしたもので、Palestrinaが1561年から六年間サンクタ・マリア・マッジョーレ聖堂で楽長を務めていた時代の1563年に発行した四声のためのモテット集に含まれる。最後の「踊りましょう、それを喜びましょう」<Exsultemus, et laetemur in ea>の部分は典礼文には無く、それだけに三拍子で歌われるこの部分が、聖歌からはみ出てキャロルに近付けられているのが感じられる。この曲が今回の演奏主要プログラムの最後に置かれるのは、その歌詞をこれを聴いて下さる皆さんへのささやかな終りのメッセージとして、クリスマスのお祝いの言葉に替えたいからである。

(文責：野口 碩)

第 1 ステージ

Gottes Sohn ist kommen……………Johann Sebastian Bach 編曲

1. Gottes Sohn ist kommen uns allen zu Frommen  
hier auf diese Erden in armen Gebärden,  
daß er uns von Sünde freie und entbinde. 神様の御子は私達全てのためにここにお生まれになりました、この世に、身をやつした御物腰で、私達を罪から自由にし、解放するために。
2. Er kommt auch noch heute und lehret die Leute,  
wie sie sich von Sünden zur Buß sollen wenden,  
von Irrtum und Torheit treten zu der Wahrheit. 御子は今日もまた来られて人々を教えられます、どのようにして罪から悔い改めへ回心し、過ちや愚かな行いから真理へ移るべきかを。 (フィリ2.7)
3. Die sich sein nicht schämen  
und sein' Dienst annehmen durch  
ein' rechten Glauben mit ganzem Vertrauen,  
denen wirt er eben ihre Sünd vergeben. 恥じることなく  
彼に仕えることを  
正しい信仰により、全き信頼をもって受け入れた人々は、御子がまさしく今その罪を赦して下さいます。 (マコ1.15)
4. Denn er tut ihn' schenken in den Sakramenten  
sich selber zur Speisen,  
sein Lieb zu beweisen,  
daß sie sein genießen in ihrem Gewissen. そこで御子は、この秘儀において  
御自分を自ら献げて食物としてお与えになります、  
御自分の愛を示すために、  
その食物が彼らの良心に用いられるようにと。
- 5.~9. (この編曲では省略)  
(参考) ルカ21.19「イエスはパンを取り、感謝の祈りを唱えて、それを裂き、使徒達に与えて言われた。  
「これは、貴方がたのために与えられる私の体である。私の記念としてこのように行いなさい。」

Vom Himmel hoch, da komm ich her……………Johann Sebastian Bach 編曲

1. Vom Himmel hoch, da komm ich her,  
ich bring euch gute neue Mär;  
der guten Mär bring ich so viel,  
davon ich singn und sagen will. 高い高い天から、私はそこまで来ています、  
貴方がたに良い、新しい知らせを持って来ました。  
その良い知らせを私は沢山持って来ました、  
それを歌い、語って聞かせます。
2. Euch ist ein Kindlein heut geborn  
von einer Jungfrau auserkorn,  
ein Kindelein so zart und fein,  
das soll eu'r Freud und Wonne sein. 貴方がたのために今日幼児(おさなご)が生まれました、  
ひとりの神に選ばれた処女(おとめ)によって、  
幼児(おさなご)はとても弱々として華奢ですが、  
その児が必ず貴方がたの歓喜となり、至福の喜びとなるでしょう。
3. Es ist der Herr Christ, unser Gott,  
der will euch führn aus aller Not,  
er will eu'r Heiland selber sein,  
von allen Sünden machen rein. それは私達の神様であられるキリスト様なのです、  
その方があらゆる苦難から貴方がたを導き出して下さるでしょう、彼は自ら貴方がたの救い主に成って、  
あらゆる罪からきよめて下さるでしょう。
4. Er bringt euch alle Seligkeit,  
die Gott der Vater hat bereit',  
daß ihr mit uns im Himmelreich  
sollt leben nun und ewiglich. その方は貴方がたにあらゆる至福をもたらします、  
御父である神様が用意して下さるのです、  
ですから、貴方がたは私達と共に天国に住む事になるのです、今から、そしてこれから永遠に。
5. (この編曲では省略)  
(参考) ルカ2.10~11「天使は言った。「恐れるな。私は、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。  
今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそメシアである。……」

Wachet auf, ruft uns die Stimme……………Johann Sebastian Bach編曲

1.

Wachet auf, ruft uns die Stimme der Wächter  
sehr hoch auf der Zinne,  
wach auf, du Stadt Jerusalem!  
Mitternacht heißt diese Stunde,  
sie rufen uns mit hellem Munde;  
Wo seid ihr klugen Jungfrauen?  
Wohlauf, der Bräut' gam kommt,  
steht auf, die Lampen nehmt! Halleluja!

Macht euch bereit zu der Hochzeit,  
ihr müsset ihm entgegengehn!

2.

Zion hört die Wächter singen,  
das Herz tut ihr vor Freude springen,  
sie wachet und steht eilend auf.  
Ihr Freund kommt vom Himmel prächtig,  
von Gnaden stark, von Wahrheit mächtig,  
ihr Licht wird hell, ihr Stern geht auf.  
Nun komm, du werthe Kron, Herr Jesu, Gottes Sohn!

Hosianna! Wir folgen all zum Freudensaal  
und halten mit das Abendmahl.

3.

Gloria sei dir gesungen mit Menschen  
und mit Engelzungen, mit Harfen  
und mit Zimbeln schön.  
Von zwölf Perlen sind die Tore an deiner Stadt;  
wir stehn im Chore der Engel  
hoch um deinen Thron.  
Kein Aug hat je gespürt,  
kein Ohr hat mehr gehört solche Freude.

Des jauchzen wir  
und singen dir das Halleluja für und für.

目覚めよと、物見達が私達を呼ぶ声がします、  
城の鋸壁の上の非常に高い所で、  
「起きよ、汝エルサレムの都よ！」と。  
この時間は真夜中だというのに  
あの人達はかん高い口調で私達を呼ぶのです。  
「あの賢い乙女達は何処にいるのか？」  
さあ、花婿が来ます、  
立ち上がって灯火を執りなさい！ハレルヤ（ヤーヴェ  
を誉め称えよ）！  
婚礼の用意をしなさい、  
貴方がたはあの方をお出迎えしなければならない！」

シオンよ聞きなさい、物見達が歌っています、  
心を喜びに躍らせるがよい、  
目を覚まして、急いで立ち上がりなさい。  
貴方がたの恋人は天から絢爛たる装いで来られています、  
多大な恩寵と揺るぎない真理で飾って、  
乙女達の光よ明るくなれ、乙女達の星よ高く上がれ。  
さあお出で下さい、王位にふさわしいお方、神様の  
御子イエス様！  
ホサナ（ようこそ、私達をお救い下さい）！私達は皆  
あとに続いて喜びの広間へ入り、晚餐を共にします。

栄光が貴方のために諸人と声を合わせて歌われよ、  
そしてよどみなき賛美の朗誦をもって、豎琴の音と  
共に、そして心地よいシンバルの音と共に。  
あなたの都の門は12の珠玉で出来ています。  
私達は天使の賛美の群の中に立っています。  
高い所で、貴方の王座を囲んで。  
いかなる眼もかつて経験したことがありません、  
いかなる耳もめったに聞いた事がありません、こんな  
歓喜を。  
ですから、私達は喜びの声を上げて  
ハレルヤの歌を貴方に捧げます、いつまでも。

(参考)

イザヤ62.6「エルサレムよ、あなたの城壁の上に私は見張りを置く。昼も夜も決して黙してはならない。」  
マタイ25.1~13「そこで、天の国は次のようにたとえられる。十人のおとめが、それぞれともし火を持って、  
花婿を迎えに出て行く。そのうちの五人は愚かで、五人は賢かった。愚かなおとめたちはともし火は  
持っていたが、油の用意をしていなかった。賢いおとめたちは、それぞれのともし火と一緒に、壺に  
油を入れて持っていた。ところが、花婿の来るのが遅れたので、皆眠気がさして眠り込んでしまった。  
真夜中に『花婿だ。迎えに出なさい。』と叫ぶ声がした。そこで、おとめたちは皆起きて、それぞれの  
ともし火を整えた。愚かなおとめたちは、賢いおとめたちに言った。『油を分けて下さい。わたしたち  
のともし火は消えそうです。』賢いおとめたちは答えた。『分けてあげるほどはありません。それより、  
店に行って、自分の分を買ってきなさい。』愚かなおとめたちが買いに行っている間に、花婿が  
到着して、用意のできている五人は、花婿と一緒に婚宴の席に入り、戸が閉められた。その後で、他の  
おとめたちも来て、『御主人様、御主人様、開けてください。』と言った。しかし主人は、『はつきり  
言うておく。わたしはお前達を知らない』と答えた。だから、目を覚ましていなさい。あなたがたは、  
その日、その時を知らないのだから。』

**Nun komm, der Heiden Heiland** ..... Hugo Distler 編曲

1.  
Nun komm, der Heiden Heiland,  
der Jungfrauen Kind erkannt.  
Des sich wunder alle Welt,  
Gott solch Geburt ihm bestellt.
2.  
Er ging aus der Kammer sein,  
dem königlichen Saal so rein,  
Gott von Art und Mensch ein Held;  
sein' Weg er zu laufen eilt.  
(参考) 詩編19.6~7「太陽は、花婿が天蓋から出るように／勇士が喜び勇んで道を走るように／  
天の果てを出で立ち／天の果てを目指して行く」
3. (本日は歌わないため省略)
4.  
"Dein Krippen glänzt hell und klar,  
die Nacht gibt ein neu Licht dar.  
Dunkel muß nicht kommen drein;  
der Glaub bleibt immer im Schein."  
「貴方の飼葉桶は明るく、くっきりと光輝いています、  
この夜が新しい光を提供して下さいました。  
闇よ、入って来るな！  
信仰はいつまでも光の内に留まります。」
5. (本日は歌わないため省略)  
(参考) ヨハネ1.4~5「言(ことば)の内に命があった。命は光であった。光は暗闇の中で輝いている。  
暗闇は光を理解しなかった。」

**Maria durch ein' Dornwald ging** ..... Hugo Distler 編曲

1.  
Maria durch ein' Dornwald ging,  
Kyrieleison!  
Maria durch ein' Dornwald ging,  
der hat in sieben Jahr'n kein Laub getragen.  
Jesus und Maria!
2.  
Was trug Maria unter ihrem Herzen?  
Kyrieleison!  
Ein kleines Kindlein ohne Schmerzen,  
das trug Maria unter ihrem Herzen. (ソプラノ)  
[Maria, was trug Maria unterm Herzen?] (アルト)  
Jesus und Maria!
3.  
Da haben die Dornen Rosen getragen.  
Kyrieleison!  
Als das Kindlein durch den Wald getrag' n,  
da haben die Dornen Rosen getrag' n.  
Jesus und Maria!
- 4.~7. (この編曲では省略)
- マリア様はイバラの茂る原を抜けて行かれました、  
主よ、憐れみ給え！  
マリア様はイバラの茂る原を抜けて行かれました、  
その茂みは7年間1枚の葉も着けませんでした。  
ああイエス様とマリア様！
- マリア様は何を御自分の心に抱いておられたので  
しょうか？  
主よ、憐れみ給え！  
幼い赤ちゃんが痛みを覚えないようにと、  
その事をマリア様は御自分の心に抱いておられたの  
です。  
マリア様、マリア様は何を御自分の心に抱いておられ  
たのでしょうか？  
ああイエス様とマリア様！
- そこにはバラの刺が生えていました。  
主よ、憐れみ給え！  
そのおさなごが茂みを抜けて運ばれた時、  
そこにはバラの刺が生えていました。  
ああイエス様とマリア様！

---

**Ave Maria** ..... **Jacques Arcadelt**

Ave Maria, gratia plena,  
Dominus tecum;  
Ave Maria, benedicta tu in mulieribus  
et benedictus fructus ventris tui Jesus.

Sancta Maria, ora pro nobis. Amen.

ようこそマリア様、(何という)満ち溢れる優しさ、主(キリスト)が貴女と共に居られます。ようこそマリア様、貴女は女達の中で祝福されたお方、そして祝福を受けて貴女の胎が御生みになったお方イエス様。聖なるマリア様、私達の代わりに執り成して下さい。アーメン(真実に)。

**Ave Maria** ..... **Josquin des Prés**

Ave Maria gratia plena,  
Dominus tecum, virgo serena.  
  
Ave cujus conceptio solemniter plena gaudio,  
  
coelestia, terrestria, nova replet laetitia.  
Ave, cujus nativitas nostra fuit solemnitatis,  
ut lucifer lux oriens verum solem praeveniens.

Ave pia humilitas sine viro foecunditas,  
  
cujus anuntiatio nostra fuit salvatio.

Ave vera virginitas, immaculata castitas,  
cujus purificatio nostra fuit purgatio.

Ave praeclara omnibus angelicis virtutibus,  
  
cujus fuit assumptio, nostra glorificatio.

O mater Dei, memento mei. Amen.

ようこそマリア様、(なんという)満ち溢れる優しさ、主(キリスト)が貴女と共に居られます、きよらかな処女よ。ようこそ、その方(主)を身籠った厳かな受胎は喜びに満ち溢れ、天の者を、地の者を、新たな喜びが満たしています。ようこそ、その方(主)が私達のためにお生まれになったことは厳かな大事な事でした、あたかも東の太陽の光が唯一の正義を告げ知らせるように。ようこそ、(なんという)敬虔な賤しさ、夫を得てなかったのにこの豊かさ、その方(主)の私達にお告げになった事はこの世を御救いになることでした。ようこそ、純粹で、汚れのない、貞潔なおとめよ、その方(主)が私達のためになさった潔めのみわざも、罪の贖いでした。ようこそ、御使い達の軍勢がこぞって崇めようとするお方よ、その方(主)が私達のために栄光を受けられたのは、御自分のものとするためでした。おお神(三位一体のキリスト)の御母よ、私を覚えて下さい。アーメン。

**Ave, Maria** ..... **Tomás Luis de Victoria**

Ave Maria, gratia plena:  
Dominus tecum:  
benedicta tu in mulieribus,  
et benedictus fructus ventris tui  
Jesus Christus.  
Sancta Maria, Mater Dei  
ora pro nobis peccatoribus nunc,  
et in hora mortis nostrae, Amen.

ようこそマリア様、(なんという)満ち溢れる優しさ、主(キリスト)が貴女と共に居られます。貴女は女達の中で祝福された御方、そして祝福を受けて貴女の胎がお産みになったお方、イエス・キリスト様。聖なるマリア様、神の御母よ、今、罪人の私達の代わりに執り成して下さい、そして私達の死ぬ時にも。アーメン。

**Ave, Maria** ..... **Giovanni Pierluigi da Palestrina**

Ave, Maria, gratia plena;  
Dominus tecum:  
benedicta tu in mulieribus,  
et benedictus fructus ventris tui, Jesus.

Sancta Maria, regina coeli, dulcis et pia;

O mater Dei, ora pro nobis peccatoribus

ut cum electis te videamus.

ようこそマリア様、(なんという)満ち溢れる優しさ、主(キリスト)が貴女と共に居られます。貴女は女達の中で祝福された御方、そして祝福を受けて貴女の胎がお産みになったお方、イエス様。聖なるマリア様、天の女王様、(私の)大好きな、そして敬虔な。おお神の御母よ、罪人の私達の代わりに執り成して下さい、選ばれた人々(聖徒)と共に私達も貴女を心に留めますように。

---

## 第2 ステージ

### Ich steh an deiner Krippen hier……………Johann Sebastian Bach編曲

1.  
Ich steh an deiner Krippen hier,  
O Jesu, du mein Leben;  
ich komme, bring und schenke dir,  
was du mir hast gegeben.  
Nimm hin, es ist mein Geist und Sinn,  
Herz, Seel und Mut,  
nimm alles hin und laß dir's wohlgefallen.
  2.  
Da ich noch nicht geboren war  
da bist du mir geboren  
und hast mich dir zu eigen gar,  
eh ich dich kannt, erkoren.  
  
Eh ich durch deine Hand gemacht,  
da hast du schon bei dir bedacht,  
wie du mein wolltest werden.
  3.  
Ich lag in tiefster Todesnacht  
du warest meine Sonne,  
die Sonne, die mir zugebracht  
Licht, Leben, Freud und Wonne.  
O Sonne, die das werthe Licht  
des Glaubens in mir zugericht',  
wie schön sind deine Strahlen!
  4.  
Ich sehe dich mit Freuden an  
und kann mich nicht satt sehen;  
und weil ich nun nichts weiter kann,  
bleib ich anbetend stehen.  
O daß mein Sinn ein Abgrund wär  
und meine Seel ein weites Meer,  
daß ich dich möchte fassen!
  - 5.~9. (この編曲では省略)
- 私はこの貴方の飼葉桶の間近に立っています。  
おおイエス様、私の命であられるお方、  
私は貴方の御許に参り捧げます、  
貴方が私に下さったものを。  
お受け取り下さい、これが私の精神と思いと、  
心と魂と勇気です、  
全てをお受け取り下さい、そしてそれが御意に適いますように。  
私がまだ生まれていなかった時、  
(既に) 貴方は私のために生まれておられました。  
そして私を全く御自分のものとしておられました、  
そうだったのか、あなたがわかりました、選んでいて  
下さったのだと。  
そうか、私は貴方の御手によって造られたのだ、  
貴方が既に御自分の方で考えておられたのですから、  
御自分として私のもの(魂など)がどう成ることを  
望むかを。  
私は深い深い死の闇の中の留まったままでした、  
貴方は私の太陽でした、  
私に光と命と喜びと至福の喜びを私にもたらし  
て下さった太陽でした。  
おお太陽よ、私の内に培われた  
信仰の光と成られた御方よ、  
貴方の放つ光は、なんと素晴らしいのでしょうか！
- 私は喜びをもって貴方を見つめています、  
そしていくら見ても見飽きることがありません。  
そしてもうこれ以上何も出来ませんから、  
(貴方を) 拝みつつ立ちつくすばかりです。  
おお、もしも私の罪が深い淵のように成り、  
心が果てしない海のように成ってしまった時には、  
貴方をつかまえることができますように！

### Ein Kind geborn zu Bethlehem……………Johann Sebastian Bach編曲

1.  
Ein Kind geborn zu Bethlehem,  
(zu) Bethlehem;  
des freuet sich Jerusalem.  
Halleluja, Halleluja.
  2.  
Hier liegt es in dem Krippelein,  
(dem) Krippelein;  
ohn Ende ist die Herrschaft sein.  
Halleluja, Halleluja.
  3.  
Die König' aus Saba kamen her, kamen her;  
  
Gold, Weihrauch, Myrrhe brachten sie dar.  
Halleluja, Halleluja.
  4.  
Sie gingen in das Haus hinein,  
(in das) Haus hinein  
und grüßten das Kind und die Mutter sein.  
Halleluja, Halleluja.
  - 5.~6. (この編曲では省略)
- 一人のみどりごが生まれました、ベツレヘムに、  
ベツレヘムに、  
エルサレムよ、そのことを喜べ。  
ハレルヤ (ヤーヴェを誉め称えよ)、ハレルヤ。
- ここに寝ておられます、小さなまぐさ桶の中に、  
小さなまぐさ桶の中に、  
とこしえに支配権を持たれるお方です。  
ハレルヤ、ハレルヤ。
- 博士達がシバ (現在のイエーメン) からやって来  
ました、やって来ました。  
彼らは黄金、乳香、没薬を捧げました。  
ハレルヤ、ハレルヤ。
- 彼らは小屋の中に入って行き、  
小屋の中に入って行き、  
御子と御母の居られる所に挨拶の礼を捧げました。  
ハレルヤ、ハレルヤ。

**In dulci jubilo** ..... **Johann Sebastian Bach** 編曲

1.  
In dulci jubilo nun singet und seid froh:  
Unsers Herzens Wonne liegt in praesepio  
und leuchtet wie die Sonne matris in gremio.  
Alpha es et O.  
2.  
O Jesu parvule, nach dir ist mir so weh.  
Tröst mir mein Gemüte, o puer optime,  
Durch alle deine Güte,  
o princeps gloriae.  
Trahe me post te.  
3.  
Ubi sunt gaudia? Nirgends mehr denn da,  
wo die Engel singen nova cantica  
und die Zimbeln klingen in regis curia.  
Eja qualia!  
4. (この編曲では省略)

快い叫びを上げて、さあ歌って喜びなさい。  
私達の心の歓喜を与えて下さるお方はまぐさ桶の中に  
横たわり、  
御母の膝で太陽のように光り輝いて居られます。  
アルファであり、オメガであられる方です。

おお、幼いイエス様、貴方にならうことは私にとって  
とても大変です。  
私を安心させて下さい、おこの上ない御子よ、  
有らん限りの貴方の優しい御意によって、  
おお栄光の支配者よ。  
私を貴方のみあとにお連れ下さい。

喜びは何処にあるのか？そこ以外の何処にも無いでは  
ないか、  
そこでは天使達が新しい歌を歌っていて、  
小さなシンバルが王の裁きの場所で鳴り響いています。  
さあ、どんな者も！

**O magnum misterium** (綴り原文のまま) ..... **William Byrd**

O magnum misterium et admirabile sacramentum,  
ut animalia viderent Dominum natum,  
iacentem (綴り原文のまま) in praesepio.  
Beata Virgo,  
cujus viscera portare Dominum Christum.

おお大いなる玄義と驚くべき秘蹟よ、  
何と動物達も生まれた主を見守っていました、  
家畜小屋の中に寝かされている主を。  
祝福されたおとめよ、  
その子宮が主キリストをもたらすとは。

VERSE (ほかの本文が挿入された、グレゴリオ聖歌では独唱者が歌う部分)

Ave Maria, gratia plena,  
Dominus tecum.

ようこそマリア様、(何という)満ち溢れる優しさ、  
主(キリスト)が貴女と共に居られます。

(折り返し)

Beata Virgo,  
cujus viscera portare Dominum Christum.

祝福されたおとめよ、  
その子宮が主キリストをもたらすとは。

**O magnum mysterium** ..... **Tomás Luis de Victoria**

O magnum mysterium et admirabile sacramentum,  
ut animalia viderent Dominum natum,  
jacentem in praesepio:  
O beata Virgo,  
cujus viscera meruerunt portare  
Dominum Christum.  
Aleluia. (綴り原文のまま)

おお大いなる玄義と驚くべき秘蹟よ、  
何と動物達も生まれた主を見守っていました、  
家畜小屋の中に寝かされている主を。  
祝福された処女よ、  
その子宮はもたらすに相応しいものでした、  
主であるキリストを。  
アレルヤ。

**Dies sanctificatus** ..... **Giovanni Pierluigi da Palestrina**

Dies sanctificatus illuxit nobis:  
venite gentes, et adorete Dominum:  
quia hodie descendit lux magna in terris.  
Haec dies, quam fecit Dominus.  
Exsultemus, et laetemur in ea.

聖なるものとされる(御降誕の)日が私達に明け  
ました。  
諸々の国民よ、来て主を崇めなさい。  
今日大きな光がこの世に降って来られたからです。  
この日は、主がお与え下さったのです。  
踊りましょう、それを喜びましょう。

## クリスマスにちなんだ讃美歌（讃美歌21より）

### ☆まきびとひつじを

1. まきびとひつじを 見守るその夜 はじめて天使は ノエルを伝えた。  
(くりかえし) ノエル、ノエル、ノエル、主イエスは生まれた。
2. 神の子主イエスは まずしい姿で この世に来られて まぶねに生まれた。
3. 博士は輝く その星たよりに はるばるまぶねの 主イエスを訪ねた。
4. 喜びあふれて 東の博士は 主イエスを拝んで 宝をささげた。
5. われらもこよいは 歌声合わせて 平和をもたらす 主イエスをたたえよう。

### ☆いそぎ来たれ、主にある民

1. いそぎ来たれ、主にある民、み子の生まれし、ベツレヘム。うたえ、祝え、天使らと共に。  
(くりかえし) 来りて拝め、来たりて拝め、来たりて拝め、いざ、共に。
2. 光の主よ、神の神よ、おとめマリアを 母として 生まれまししみどり子、主イエスよ。
3. 今われらも 共に歌わん、み使いたちと 声あわせ、「み栄えあれ、いと高き神に」。
4. 永遠なる 神のことは、肉となりにし この良き日。迎えまつれ、人なる主イエスを。

### ☆天なる神には

1. 「天なる神には み栄えあれ、地に住むひとには 平和あれ」と、  
み使いこそりて ほむる歌は、静かにふけゆく 夜にひびけり。
2. 今なおみ使い つばさをのべ 疲れしこの世を おおい守り、  
悲しむ都に 悩む里に 慰めあたうる 調べうたう。
3. 重荷を負いつつ 世の旅路に 悩める人びと かしらをあげ、  
はえあるこの日を たたえうたう 楽しき歌声 ききて慰え。
4. み使いのうたう 平和来たり、 久しく聖徒の 待ちしくに、  
主イエスをわれらの 君とあがめ、あまねく世の民 高くうたわん。

### ☆きよしこの夜

1. きよしこの夜 星はひかり、 すくいのみ子は まぶねのなかに ねむりたもう、やすらかに。
2. きよしこの夜 み告げうけし ひつじかいらは み子の御前に ぬかずきぬ、 かしこみて。
3. きよしこの夜 み子の笑みに、 あたらしき代の あしたのひかり かがやけり、 ほがらかに。



指揮 水野克彦

東京芸術大学卒業。ピアノを滝崎鎮代子、クラリネットを千葉国夫、室内楽を細野孝興の各氏に師事。オルガンの手ほどきを今井奈緒子氏に受ける。

幼少よりピアノの手ほどきを受け、合唱の伴奏経験を通して、次第に合唱曲や宗教曲の分野への興味が芽生える。芸大在学中はクラリネットを専攻し、芸大九十周年記念演奏会の室内楽奏者に選ばれる。卒業後はオーケストラ、室内合奏などの演奏の他、ソロリサイタルも度々行う。しかし、その間も合唱曲や宗教曲への興味は衰えず、芸大バッハ・カンタータ・クラブに在籍し、小林道夫氏の薫陶の下に主にバッハの宗教曲作品を研究すると共に、オルガン演奏の研鑽も積む。

次第に宗教曲や古い鍵盤音楽の演奏が多くなり、現在は指揮、オルガン、通奏低音による宗教曲作品演奏の他、声楽家や器楽演奏者とのアンサンブル、作曲と幅広く活動。オルガンリサイタルの他、東京大学教養学部オルガン演奏会、ドイツ文学会オルガン演奏会などに出演。

現在、茗荷谷キリスト教会聖歌隊指揮者・オルガニスト、日本オルガニスト協会会員、日本オルガン研究会会員の他、渋谷混声合唱団、女声合唱団アンサンブル・フローラ、東京アマデウス合唱団、東京三菱銀行合唱団の指揮者。

---

東京アマデウス合唱団

- ソプラノ 相原芳子・大久保ルミ子・辻村順子・村松あおい  
山形明子
- アルト 相澤美佐・伊藤正子・加藤尚子・重泉秀子・鈴木寿見  
高橋早苗・根本美紀・原田淑子・宮崎米子
- テノール 伊原 宏・小沢 仁・片岡 繁・平野一郎・吉田一郎
- バス 柿沼 哲・楢崎誠広・野口 碩
-

## 東京アマデウス合唱団のご案内

(平成12年12月現在)

---

今回ご来場の皆様方の中には、すでにご存知の方々も多いかと思いますが、東京アマデウス合唱団を初めてお聴きになる方々のために、若干のご案内をさせて頂きたいと思っております。

東京アマデウス合唱団は、1980年に「モーツァルトのレクイエム」を自分達の手で演奏したいという夢を持つ、アマチュアの仲間達が集まって創立しました。

以来、モーツァルトのほか古典派の作品を中心とした宗教曲を、ほぼ毎年1回の定期演奏会で演奏してまいりました。

今年で20周年を迎えましたが、その間に演奏した曲の主なものを裏表紙に掲載しましたのでご一覽下さい。

この合唱団は、指導者の招聘・指揮者の選定・会場設定・演奏会の曲目選定・プログラム印刷・演奏する曲目の解説から訳詞に至るまで全てが団員の労力と団員だけの資金で成り立っており、手作りの演奏会を開催するユニークな合唱団としての存在価値を、団員一同が誇りとしております。

創立当初は68名いた団員も現在は20名程度になりましたが、なんとか存続させたいという団員の強い意志に支えられて、現在に至っております。

今後の活動予定は次ページの通りですが、一緒に唄ってみたい方や興味のある方がおられましたら、是非とも練習会場にお出かけ頂いて練習状況をご覧戴きたい(見学大歓迎)と願っております。

次ページご参照の上ご来場戴きたく、団員一同心からお待ちしております。

---

[ホームページ]

<http://www5.ocn.ne.jp/~amadeus/>

## 今後の活動予定

2001年4月28日(土) 会場 東京オペラシティ・タケミツコンサートホール  
 渋谷混声合唱団の演奏会に賛助出演(自由参加)  
 演奏曲目 ヘンデルの「メサイア」(指揮 水野克彦)

2001年10月～11月

第20回定期演奏会 会場 石橋メモリアルホールを予定  
 主な演奏曲目 モーツァルト:三位一体の主日のミサ K167  
 モーツァルト:インテル・ナートス・ムリエルム K72  
 J.ハイドン:二つのモテット 他

2002年春 小演奏会 会場及び主な演奏曲目等 未定

2002年秋

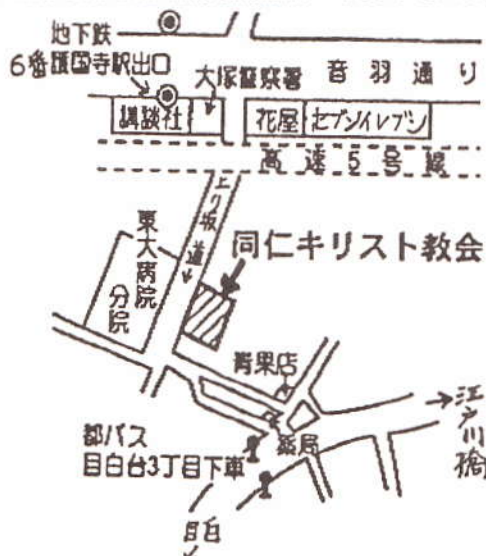
第21回定期演奏会 会場 石橋メモリアルホールを予定  
 主な演奏曲目 バッハ:ミサ曲 イ長調 BWV234

### (参加・見学ご希望の方へ)

お問い合わせ先 辻村 順子 048-476-4056  
 大久保ルミ子 03-3960-7714

- 毎週水曜日 午後6時30分～9時
- 練習会場 同仁キリスト教会美登里幼稚園2F
- 指導者 水野克彦先生
- 会費 月額 4,000円(学生2,000円)

#### 練習場所案内図



(文京区目白台3-10-9)

- 地下鉄有楽町線  
「護国寺」駅下車  
6番出口から徒歩5分
- 又は
- JR山手線  
「目白」駅で下車し  
駅前から都バスの  
「椿山荘」行き、又は  
「新宿西口」行きに乗り  
「目白台三丁目」で下車  
徒歩5分

## Tokyo Amadeus Chorus

1981 February Mozart :RÉQUIEM  
1981 November Händel :MESSIAH  
1982 November Fauré :RÉQUIEM  
1983 September Mozart :KRÖNUNGS MESSE  
1984 September Mozart :RÉQUIEM  
1985 October Bach :KANTATE Nr.106  
1986 October Mozart :GROSSE MESSE  
1987 October Schütz :MUSIKALISCHE EXEQUIEN  
1988 December Mozart :VESPERAE  
1989 November Mozart :REQUIEM  
1991 February Mozart :LITANIAE  
1991 November Mozart :DOMINICUS MESSE  
1992 Nov. Charpentier :MESSE DE MINUIT POUR NOËL  
1993 November Mozart :MISSA BREVIS  
1994 November Mozart :RÉQUIEM (JOINT CONCERT)  
1995 October Bach :KANTATE Nr.182  
1996 November Mozart :VESPERAE  
1997 October Mozart :MISSA SOLEMNIS  
1998 October Bach :KANTATE Nr.61  
1999 Oct. Rheinberger :STABAT MATER  
2000 July Mendelssohn :AUS TIEFER NOT SCHREI' ICH ZU DIR  
2000 December :CHRISTMAS CONCERT (SOGAKUDO)